



## 実践団体・プラン基本情報

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

ただし「実践団体・プラン基本情報」全体で4ページ以内に収めてください。

### 実践団体の基本情報

記入日	西暦 2026 年 1 月 15 日（2025 年度のチャレンジプラン）
プラン名	大阪から日本全国に、世界に広げよう！BOSAI 世界地図プロジェクト
実践団体名	グローバルユース防災サミット実行委員会
代表者名	出水 眞由美
電話番号	090-1028-3719
メールアドレス	team@youthbosai2025.net
実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください	<p>大阪を拠点に、防災に取り組む 10 代から 20 代のユースが学校や国・地域の枠を超えてつながる防災プラットフォームです。地元を守る「ローカル」の視点と、多文化共生に対応する「グローバル」の視点の双方に立ち、国内外のユースをつなぐ多様な防災活動を企画、実践している。</p> <p>2021 年以降、国内外のユースが互いの活動を伝え合い、学び合う「グローバルユース防災サミット」や、活動の成果を社会に広く発信する「次世代 BOSAI フォーラム」など、150 を超える活動を実施してきました。これまでに 6,000 人以上のユースが参加し、防災の重要性を社会に発信し続けている。</p> <p>2025 年は、地元で開催された大阪・関西万博を最大限に活用し、万博会場をフィールドとして、世界の人々と対話を重ね、各国・地域における災害の歴史や防災に対する考え方を聞き取り、その声を「防災世界地図」に集約、可視化し、「災害に強い未来の共創」について考えた。国内外のユースとの定例学習会などを通して災害大国日本のユースが世界の人々と共に「BOSAI」の大切さを考え、災害</p>



	に強い未来を実現するための具体的な提案や思いを大阪から世界に向けて発信している。
<b>所属メンバー</b> お名前やご所属、役割などを差し支えない範囲で書いてください	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実行委員長：出水眞由美（防災士、防災教育 NPO 理事）</li> <li>・ 副実行委員長：藤田翔乃（防災教育 NPO 理事、防災科学技術研究所）、出水季治（防災士、防災教育 NPO 理事、行政職員）</li> <li>・ ユースリーダー：岩切翔泉（大阪府立水都国際高等学校防災部ファウンダー）、梶原春鹿（同 部長）</li> </ul>
<b>活動の本拠地</b> 団体の事務所の所在地や居住地など記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。	大阪府大阪市 中心となる活動拠点：大阪・関西万博（同市此花区）、おおさか ATC グリーンエコプラザ（同市住之江区）
<b>活動開始時期・結成時期</b>	2021 年 1 月 1 日活動開始、同年 4 月 1 日組織設立
<b>過去の活動履歴・受賞歴</b> これまで行ってきた活動や受賞歴（チャレンジプラン以外も含む）をご記入ください	受賞歴なし 年ごとの活動実績は以下の通り。 <u>2021 年</u> ：大阪・関西万博 TEAM EXPO 2025 共創チャレンジ認定、公式行事登壇。大阪、ドイツ・ハンブルクの姉妹都市のユースによる相互学習開始。第 1 回グローバルユース防災サミット（各国・各地のユースによる防災活動の発信および合同学習会、以下サミット）開催。関西エリアの防災施設や自然災害伝承碑での防災学習開始。活動数 20。 <u>2022 年</u> ：万博機運醸成行事および立命館大学講義登壇。ぼうさいこくたい出展。トルコとの相互学習開始。第 1 回次世代 BOSAI フォーラム（市民参加の成果発表会、以下フォーラム）、第 2 回サミット開催。関西エリアの防災施設や自然災害伝承碑での防災学習。聴覚障がい、知的障がいのあるユースが参画、活動開始。活動数 19。 <u>2023 年</u> ：万博機運醸成行事、全国規模の防災ネットワーク会議、大阪市男女共同参画シンポジウムに登壇。2018 年西日本豪雨被災地での防災学習および現地ユースとの相



	<p>互学習。ぼうさいこくたいに出展。第 2 回フォーラムをトルコ救援チャリティとして実施。第 3 回サミット開催。関西エリアの防災施設や自然災害伝承碑での防災学習。ドイツへのユース代表派遣し、防災探究および連携強化。マウイ島山火事チャリティ活動実施。活動数 27。</p> <p><u>2024 年</u>：万博機運醸成行事、全国規模の防災ネットワーク会議登壇。タイ王国総領事館での連携開始。第 3 回フォーラム（能登半島地震チャリティ）実施。ぼうさいこくたいに代表派遣。オーストラリア・シドニーとの相互学習開始。第 4 回サミット開催。マウイ島、アメリカ・ロサンゼルスへのユース代表派遣、防災探究および連携強化。メディアでの発信強化（テレビ、新聞 4 社）、活動数 31。</p> <p><u>2025 年</u>：阪神淡路大震災 30 年特別番組ほか 4 件出演。人と防災未来センター、アジア防災センターでの防災学習実施。オーストラリア・シドニーにユース代表派遣。</p> <p>万博に招聘した海外ユースと合同防災学習。第 4 回フォーラム、第 5 回サミット開催。世界の災害データ分析。12 月まで活動数 47。</p>
--	--

プランの基本情報

<p>プランでの実践主体</p> <p>プランを実践した人の主な属性</p> <p><b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b></p>	<p>①学校・教育関係 ③保護者・PTA ④地域組織 ⑦企業・産業関係 ⑧ボランティア ⑨NPO ⑩学術組織</p> <p>実行委員会は、学生を核に、教員、地域組織、企業、NPO、大学などがプロボノとして支援しています。</p>
<p>プランの運営側の人数（実数）</p>	<p>約 12 人</p>
<p>プランの活動地域</p> <p>今回のプランで活動をした地域を記入してください。正確な住所でなく「○○校区・○○自治会」などでも構いませんが、少なくとも「○○都道府県○○市町村」などの自治体名は入れてください。オンラインによる全国発信・世界発信などがある場合には、その旨も書いてください。</p>	<p>大阪府大阪市</p> <p>中心となる活動拠点：大阪・関西万博（同市此花区）、おおさか ATC グリーンエコプラザ（同市住之江区）</p> <p>ほかに、大阪市内～関西エリアでの学習や交流、海外での活動、全国のユース防災団体 35 団体との連携、オンライン交流など。</p>



<p>プランの防災教育の対象者</p> <p>防災教育の対象者の主な属性</p> <p><b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b></p>	<p>②小学生（低学年） ③小学生（中学年） ④小学生（高学年） ⑤中学生 ⑥高校生 ⑦大学生 ⑨外国人 ⑩教職員・保育士等 ⑪保護者・PTA ⑫地域住民 ⑬企業・組織 ⑭女性 ⑮障がい者 ⑯支援学校等児童生徒</p> <p>⑱海外 ⑲防災関係者 ⑳全ての人々（活動に制限を設けていません）</p>
<p>防災教育の対象者の人数（実数）</p>	<p>約 115 人</p>
<p>プランが対象とする災害</p> <p>プランが対象とする災害</p> <p><b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b></p>	<p>①地震 ②津波 ③風水害 ④土砂災害 ⑧火災 ⑨災害全般（日本にはあまりない世界の災害も対象にしています）</p>
<p>プランの活動目的</p> <p>プランの主な活動目的</p> <p><b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b></p>	<p>①防災意識を高める ③防災に関する知識を深める</p> <p>④遊び・楽しみの要素を入れた防災</p> <p>⑥災害に強い地域をつくる ⑦災害対応能力の育成</p> <p>⑧防災に役立つ資料・材料づくり</p> <p>⑨防災に関する技術の習得</p> <p>⑩その他（防災に高い関心を持たない人への防災啓発、社会課題としての防災の意義と重要性の発信、ユースの社会起業の促進、防災キャリア形成支援）</p>
<p>対象者が身につく知識・技能等</p> <p>プランの対象者が身につけることができる知識・技能等</p> <p><b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b></p>	<p>①地震・津波・火山災害</p> <p>②気象災害</p> <p>③災害時に発生する課題・影響</p> <p>④過去の教訓が教える対応策</p> <p>⑤起こりうる災害の地図等による可視化</p> <p>⑥平時に行う被害を出さないための備え</p> <p>⑦災害発生時に身の安全を確保するための行動</p> <p>⑧災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い</p> <p>⑨その他（言語やデザインなど、防災以外の分野との連携による新たな防災発信スキル、SDGs などの地球課題との連動や関連を知ることによるグローバルマインドの醸成）</p>
<p>プランの活動形態</p> <p>プランの主な活動形態</p>	<p>①イベント・行事 ②講習会・学習会・ワークショップ</p>



<p><b>複数選択可</b>です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>③講演会・シンポジウム ④総合的な学習（探求）の時間 ⑧学校内の諸活動 ⑨放課後の部活道(サークル)等 ⑩校外学習・移動教室 ⑪体験学習 ⑭研究 ⑰その他（メディアを通じた発信）</p>
<p>プランでの連携先 プランで連携した相手の属性 <b>複数選択可</b>です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。いない場合には「いない」を残してください</p>	<p>①学校・教育関係 ③保護者・PTA ⑦それ以外の地域組織 ⑧国・地方公共団体 ⑨公共施設 ⑩企業・産業関係 ⑪ボランティア ⑫NPO ⑬職業・職能団体 ⑮学術組織 ⑰その他（2025年日本国際博覧会協会、各国パビリオン、総領事館等）</p>
<p>実践にかかった金額 チャレンジプラン予算額に関わらず実践でかかった費用の総額をご記入ください 具体的金額を記入するか、選択肢から<b>該当しないものを削除し該当するものを1つ残す</b></p>	<p>500万円未満</p>

### プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キックオフミーティング</li> <li>・ユース会議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万博テストラン、リハ－サル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災学習</li> <li>・サミット登壇、展示物準備</li> <li>・防災×デザイン学生連携（～9月）</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユース会議</li> <li>・学識者からの助言、支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サミット準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外ユースとの交流、学習</li> <li>・防災学習会実施</li> <li>・サミット開催</li> <li>・「防災世界地図」展示</li> <li>・防災意識調査</li> <li>・メディア出演</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユース会議</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災意識調査</li> <li>・「防災世界地図」展示</li> </ul>



7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユース会議</li> <li>学識者からの助言、支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>防災意識調査</li> <li>「防災世界地図」展示</li> <li>メディア出演</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユース会議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み期間の活動ガイドライン作成（万博での活動）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災意識調査</li> <li>防災学習会実施</li> <li>「防災世界地図」展示</li> <li>出張講座実施</li> <li>メディア出演</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユース会議</li> <li>学識者からの助言、支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニサミット開催</li> <li>防災意識調査</li> <li>防災学習会実施</li> <li>出張講座実施</li> <li>メディア出演</li> <li>「防災世界地図」展示（新潟県）</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユース会議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォーラム準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「防災世界地図」展示（東京都）</li> <li>世界の災害データ分析</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユース会議</li> <li>学識者からの助言、支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>フォーラム開催</li> <li>出張講座実施</li> <li>「防災世界地図」展示</li> <li>世界の災害データ分析</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユース会議</li> <li>学識者からの助言、支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「防災世界地図」2025年版完成</li> <li>世界の災害データ分析</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユース会議</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「防災世界地図」2026年版作成開始</li> <li>「防災世界地図」展示</li> <li>世界の災害データ分析</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユース会議</li> <li>学識者からの助言、支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>防災意識調査</li> <li>「防災世界地図」展示</li> </ul>



3月	・ユース会議 ・事業総括		・「防災世界地図」展示（神戸市、海外も予定）
----	-----------------	--	------------------------

## 実践したプランの内容

**必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。**

**複数の実践についても、該当するセル内に簡潔にまとめて記載してください。写真や図表等を入れてもかまいません。ただし「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。**

<p>プラン全体の概要</p> <p><u>どのような目的のプランか、どのような方法でどのような成果が得られたのかについて、200字～600字程度で記載してください。</u></p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>本プランは「大阪から日本全国に、世界へ BOSA を広げる」ことを目的に、地元・大阪で継続してきたユース主体の防災活動と、大阪・関西万博という国際的な場を掛け合わせて実施した。ユース自身が万博会場をフィールドとして世界各国のパビリオンを訪問し、各国代表者や来場者との直接対話を通じて、各国・地域における災害の経験や防災の考え方、文化的背景などを調査し、のべ155カ国・地域、約650名の人々から情報を集めた。</p> <p>こうして得られた知見や気づきをユースの視点で整理・編集し、「防災世界地図」として可視化することで、防災を自分たちの知識にとどめず、世界をつなぐ共通言語「BOSAI」として社会に発信した。本プランを通じて、防災の重要性に理解を深めるだけでなく、ユースの主体性と国際的視野を育み、誰一人取り残さない防災のあり方を国内外に提起する成果を得た。</p> <p>本プランは、災害に強い社会の実現において極めて重要な要素である「防災意識の向上」と「共助の促進」を加速させるとともに、次世代を担うユースによる自発的かつ自主的な防災活動の道筋を示す「ロードマップ」として活用されることを目指し、現在も内容の精査と発展を続けている。</p>
--	--



## プランの「チャレンジ」の結果

プランにおいて「何がチャレンジ」なのか、1年間の活動でそのチャレンジがどのような結果・成果を生み出したかについて、200字～600字程度で記載してください。

写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。

世界が一堂に会する国際舞台である大阪・関西万博において開催した「グローバルユース防災サミット」では、ユースがさまざまなチャレンジを「学びと成長のチャンス」と捉え、「世界をつなぐ BOSAI」の意義と重要性を力強く発信した。

一つ目のチャレンジは、日頃、学校や地域など限られた場所で活動するユースが万博の国際舞台に結集し、防災を自分から地域へ、そして世界へつなげるテーマとして捉えたことである。小学生から大学生まで93名が、海外ユースや各国パビリオンの代表、来場者らと直接対話し、日本の災害の歴史や防災の現状、災害に強い未来への思いを力強く発信した。

二つ目のチャレンジは、万博の来場者に対し、災害の経験や防災への思いを問いかける取り組みであった。言語や文化の異なる人々、防災への関心が必ずしも高くない人々とも対話を試みることで、防災が社会でどのように受け止められているかを直接知ることができた。この活動はサミット当日にとどまらず、夏休み中の自主活動として継続され、計17回の防災意識調査を通じて、のべ255カ国・地域、293組、約650名の声を集めた。万博が開催されなければ会うことのなかった人々との一期一会が、ユースたちの防災への思いを一層深めることにつながった。

これら2つのチャレンジの成果を三つ目のチャレンジである「防災世界地図」に集約し、災害に強い未来をつくることが世界共通の願いであり、その推進にはユースの貢献が欠かせないことを発信する。この地図を手にも国境を越えた連携が具体化している。ユースの連帯を力に、「世界的共助」を目標として「未来の BOSAI」を切り拓いていく。



実践内容・方法・成果

これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください。どのような成果が得られたのかについてもまとめてください。写真や図表を入れても構いません。

このセルの字数制限、写真・図表枚数制限はありませんが、「実践したプランの内容」全体で 10 ページ以内に収めてください。

実践が複数になる場合には、それぞれについてこのセル内に簡潔にまとめて記載してください。

大阪・関西万博という国際的な舞台を活用し、「グローバルユース防災サミット」を中核としたユース主体の防災発信・対話活動を実践した。対象は小学生から大学生までのユースとし、学校や地域で防災活動に取り組む若者が、立場や地域を越えて集い、社会や世界とつながる実践の場とした。昨年度から参画した障がいのあるユースの思いも加え、多様性と配慮を念頭に置き、活動した。

実践内容：主な活動は、①ユースによる防災発信と対話、②来場者を対象とした防災意識調査、③国内外ユースとの交流である。サミット当日には、93名のユースが参加し、海外ユースや各国パビリオン関係者、一般来場者と直接対話を行い、日本の災害経験や防災の知恵を「世界と分かち合う BOSAI」として発信した。また、年間を通じた活動には1,169名のユースが関わり、約4,600名の市民がユースの声に触れ、その思いを受け取る機会となった。

実践方法：実施にあたっては、ユースが安心して主体的に活動できるよう、事前準備を重視した。防災の基礎知識や各国の防災事例を学ぶ事前学習に加え、来場者への声かけや対話を想定したロールプレイを行い、役割分担や安全管理の確認を行った。

当日は、防災意識調査を対話のきっかけとして活用し、言語や文化、防災への関心の度合いが異なる来場者一人ひとりに寄り添ったコミュニケーションを心がけた。調査は一方的な聞き取りではなく、来場者の経験や考えを尊重しながら進める形式とした。サミット当日にとどまらず、夏休み期間や学校や家族単位での万博訪問の機会を利用するなど、ユースが自主的に計画を練り、準備を整えて活動を継続し、粘り強く取り組む姿勢が見られた。

成果：本事業を通じ、ユースは防災を「教えられるもの」から「自ら学び、考え、仲間と共に社会に伝え、対話により多様性に触れ、学び、この循環を繰り返し深化させるも



	<p>の」へと捉え直し、主体性や発信力を大きく高めた。また、被災経験者の語りからは災害の事実を超えた人生の重みを受け取り、各国の防災の考え方に触れることで、文化や社会背景の違いへの理解を深める機会となった。</p> <p>来場者からは共感や励ましの声が多く寄せられ、ユース自身も防災活動の意義や手応えを実感する結果となった。得られた知見は「防災世界地図」に反映し、国内外での展示や連携へと発展している。本事業は、ユースが主体となり、社会や世界とつながりながら防災を広げていく実践モデルとして、今後の展開につながる成果を得た。</p>
--	--

プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

**この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。**

<p>1. 【準備段階】<u>運営側の担当者を決める際の工夫</u></p> <p>例：役割分担を明確にした</p>	<p>ユースの誰もが参加できる「ユース会議」において希望者を募り、全員で決定した。</p>
<p>2. 【準備段階】<u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u></p> <p>例：自治会と連携をした</p>	<p>万博開催前に地元で行われたイベントなどに参加し、活動の発信を行い、自分たちの活動を知ってもらうこととサミットへの参加を呼びかけた。</p>
<p>3. 【準備段階】<u>運営側を組織化する際の工夫</u></p> <p>例：協議会を作った</p>	<p>実行委員会形式で、事務局とユース会議が連動して運営している。</p>
<p>4. 【準備段階】<u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u></p> <p>例：活動範囲を限定した</p>	<p>地元で開催される万博に焦点を絞った。</p>
<p>5. 【準備段階】<u>準備時間を確保する際の工夫</u></p> <p>例：定例の打ち合わせを設けた</p>	<p>オンラインでの「ユース会議」に加え、LINE グループでの意見交換を補完的に行った。</p>
<p>6. 【準備段階】<u>活動場所を確保する際の工夫</u></p>	<p>万博の共創パートナー企業の施設を「防災世界地図」展示拠点として借用し、その他の会議室は無償提供を受けた。</p>



例：公民館などを無料で使用した	
7. 【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した	海外からのユース招聘にあたっては民間助成金を活用した。
8. 【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた	プロボノ（大学教員、防災研究者）による講義や助言の機会を設けた。
9. 【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u> 例：webサイトを引用した	プロボノ（大学教員、防災研究者）からの助言や事例紹介を受け、学術サイトなどを参照した。
10. 【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u> 例：実行委員に助言を求めた	事務局が積極的に開拓し、プロボノ人材の確保を行っている。
11. 【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u> 例：行政・自治会等と共催した	行政（大阪市）や大学の後援を受けた。
12. 【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した	オンラインでの会議や打ち合わせ、アーカイブの活用を行った。
13. 【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた	地元企業の協賛や物品提供などを受けた。
14. 【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した	中間報告会で他団体の事例を学び、連携の可能性を開拓している。
15. 【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u>	小学生から大学生までのメンバーの中で、Z世代からa世代へのゆるやかな継承を意識的に行っている。



例：若手を入れた	
16. 【継続段階】活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫 例：引き継ぎ書を作った	成果の集約と可視化の試みとして「防災世界地図」の制作に継続的に取り組んでいる。
17. 【継続段階】活動の成果を外部に発信する際の工夫 例：web サイトで発信した	公式サイト、SNS、「防災世界地図」の展示を行っている。
18. 【継続段階】活動内容を見直す際の工夫 例：振り返りの会を開催した	「ユース会議」で意見を募り、全体で協議している。

<p>今後の活動予定・今後の展開</p> <p>今後の活動予定や、このプランの今後の展開について、200 字～600 字程度で記載してください。</p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの 2～3 枚程度にしてください。</p>	<p>本事業は、ユースが主体となり、防災を「BOSAI」として世界に発信することに挑戦したチャレンジである。大阪・関西万博という国際的かつ不特定多数が集まる場で、防災をテーマに発信を行うこと自体が出展プログラム全体を見ても珍しく、さらに、国籍や文化、言語の異なるユースが対面で議論し、共に発信する取り組みは前例の少ない試みであり、防災の新たな伝え方の可能性を示した。</p> <p>このチャレンジを通じて、地域で培った防災の実践が、国や文化を越えて広がり、共有されること、またユース間の連携や協働が新たな発想や行動を生み出す力を持つことが明らかになった。</p> <p>今後も、私たちのチャレンジは継続していく。BOSAI 世界地図の更新と活用の機会を拡大し、世界の人々との対話の経験を生かし、外国人や障がい者等への防災意識調査を行い、より多様な人々の防災への思いを調査することにより、ユースが取り組むべき未来の防災の姿をより明確にしたいと考えている。また、海外においても BOSAI 世界地図を展示する機会を増やし、交流と対話を継続していく。こ</p>
---	---



	<p>のためには、自団体だけでなく、国内外で防災活動を展開するユース世代との連携・協働が欠かせない。</p> <p>このチャレンジによってユースが経験し、学んだことを一過性のものに終わらせず、未来を見据えた持続的かつ実践的な取り組みへと発展させていく。</p>
--	--

**この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。**

<p>その他（PRポイントなど）</p> <p>これまでのセルで書けなかった内容などについてもしあれば記載してください。</p>	<p>本チャレンジは、ユースが主体となり、防災を「世界をつなぐ BOSAI」という言葉と概念で再定義し、地域から世界へ、一本の道筋に沿って発信した点に大きな特徴がある。参加したユースは、防災の知識や技術の習得に加え、多様な文化や背景を持つ人々と出会い、対話を重ねながら、互いの考えや思いを伝え合い、防災というテーマを立体的に学び、考え、伝える力を身につけた。これらの力は、防災分野にとどまらず、今後の地域づくりや国際的な活動に欠かせない重要な資質であると言える。</p> <p>本事業は、万博という特別な機会を最大限に活用した取り組みであったが、万博後はこの経験を一過性のものとせず、レガシーの一つとして継承していく。今後は、本チャレンジで得られた知見や経験、ネットワークをグローバルに展開するとともに、地域での実践にも還元していく。具体的には、多文化共生の視点を取り入れた防災教育や、災害時の支援・情報伝達の在り方などに本事業の成果を活用し、防災を切り口とした次世代人材育成モデルとして確立することで、地域における防災教育の重要性を発信し、各地域において実践的な防災力の向上につなげていきたいと考えている。</p>
--	--



## チャレンジプランを実践しての感想・実行委員会等へのご意見

**この項目は審査対象になりません。**

**任意項目ですので、当てはまるものがあれば記入してください。**

<p>チャレンジプランを実践しての感想・想い</p> <p>チャレンジプランを実践して、どのような感想・想いがありますか。率直なお気持ちなどを教えてください。</p>	<p>大阪・関西万博でのサミット開催に必要な手続きや準備が膨大であり、サミットの運営にユースの主体的かつ積極的な関与が不可欠となり、この状況が結果的にユースの自律性や積極的な参画を促したと感じている。万博でのサミットはこれまでにない大規模なもので、海外から参加したユースを交えながら準備を進める過程自体も、総力を結集させた大きな挑戦であった。</p> <p>サミットでは、ユースが前面に立ち、大人に依存することなく、自分たちの視点と手法で防災を社会へ、そして世界へ発信する姿が見られ、プロボノと共にその成長を間近で見た大人たちは頼もしさを感じた。</p> <p>日頃は学校や地域といった限られた場で活動しているユースが、万博という国際舞台に結集し、防災を「自分ごと」から「地域」、さらに「世界」へとつながるテーマとして発信すること自体も大きな挑戦であった。小学生から大学生までのユースが、海外ユースや各国パビリオンの代表、来場者と直接対話し、日本の災害の歴史や防災の現状、災害に強い未来への思いを自らの言葉で伝えた経験は、ユース自身にとって大きな挑戦であった。</p> <p>特に英語でのコミュニケーションにおいては、思うように伝わらない難しさに直面する場面もあったが、高校生や大学生が率先して対話を支え、通訳アプリの活用など試行錯誤を重ねるなど「共助」を発揮し、防災意識調査を進めることができた。</p> <p>本チャレンジプランを通じて、防災は国境を越えて世界の人々と共有し、協働できる重要なテーマであり、「BOSAI」という言葉と概念のもと、世界各地のユースとの連携が広がっていく可能性を強く感じた。この経験は、</p>
---	---



	<p>当会にとってもユースにとっても大きな転機であり、今後の活動を進めていく上での確かな原動力となっていく。</p>
--	--